



大阪赤十字病院より
地域の先生方へ

2026年4月②

News Letter

昇任医師のご紹介

令和8年4月より、坂本 匡人 医師が放射線治療科部長に昇任しました。

放射線治療科 部長 坂本 匡人



このたび、大阪赤十字病院 放射線治療科部 部長に就任いたしました坂本 匡人（さかもと まさと）です。私は1998年（平成10年）に京都大学医学部を卒業し、同大学の放射線科・核医学科に入局しました。その後、市立長浜病院放射線科、京都大学放射線腫瘍学・画像応用治療学教室、日本赤十字社和歌山医療センター放射線科、福井赤十字病院放射線科を経て、2021年（令和3年）に大阪赤十字病院放射線治療科に副部長として赴任いたしました。悪性疾患の放射線治療、特に、定位照射（ピンポイント照射）や強度変調放射線治療（IMRT）に代表される高精度治療を専門としております。

また、放射線治療の特徴を生かした緩和治療にも携わってまいりました。昨年には当院の放射線治療機器もバージョンアップし、更なる高精度治療が可能となりました。新たな放射線治療が切り拓くがん治療の展開に是非御期待ください。

地域の先生方へ

放射線治療は、外科手術・化学療法とならぶ悪性疾患の治療法ですが、今日、「切らずに治せる優しい治療」のみならず、「病変のみに厳しくそれ以外には優しい治療」へと進化しております。ほぼ全ての悪性疾患の幅広い病期に適応があり、限局期や局所進行期の根治治療としても、遠隔転移発生後や終末期の姑息・緩和治療としても患者さんのお役に立てる可能性があります。なお、個々の患者さんの放射線治療に関しましては、疾患の主科への御紹介を通して御相談いただければ幸いです。

資格・専門医等

- 臨床研修指導医 ○ 日本医学放射線学会 放射線治療専門医 ○ 日本医学放射線学会 研修指導医
- 日本医学放射線学会 研修指導医 ○ 日本癌治療認定医機構 がん治療認定医
- がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修（PEACE）修了

News Letterに関するお問い合わせ



連絡先（地域医療連携室直通）
TEL:06-6774-5127 FAX:06-6774-5126

FAX予約受付時間 ※受信は24時間対応
平日 8:30~20:00
土曜日 8:30~13:00

祝日・年末年始(12/29~1/3)、創立記念日(5/1)は除く

News Letterでは、新任医師の紹介や診療体制、施設・設備に関する最新情報などをお届けします。

放射線治療科

— 高精度放射線治療で根治とQOL向上を支える —



特色

根治から緩和まで対応する包括的放射線治療

放射線治療は、手術と並ぶがん根治療法の一つです。当科では、肺がんの定位放射線治療（SBRT）やIMRT（強度変調放射線療法）、RapidArc（回転型IMRT）などの高精度放射線治療を積極的に行い、腫瘍に十分な線量を集中させつつ正常組織への影響を最小限に抑えています。

再発がんや少数転移（1～5病変）に対しても根治を視野に入れた治療が可能で、化学療法を併用した化学放射線療法にも対応しています。骨転移などの疼痛に対する緩和的治療も多数実施しています。

医師・医学物理士・放射線治療専門技師・がん放射線療法認定看護師によるチーム医療体制のもと、安全で質の高い放射線治療を提供しています。

放射線治療用リニアックの更新について

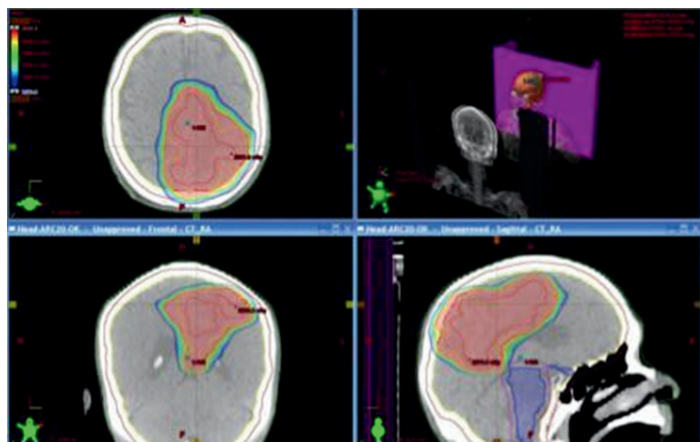
6軸治療台を導入し、多発性脳転移や脊椎転移に対する定位照射が可能に

HyperArc

近年分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤などの新しい治療法が開発され、手術や放射線治療が進歩するなどした結果、がん患者さんの生存期間が改善されました。これに伴い転移性脳腫瘍が増加しています。単発の場合は手術やガンマナイフによる定位手術的照射が行われてきましたが、多発性脳転移の場合多くは全脳照射が行われ晩期反応による認知機能低下が問題となっていました。多発性脳転移に1個ずつガンマナイフやリニアックによる定位照射も行われていたましたが、時間がかかるのが欠点でした。今回導入されたハイパーアークは、多発性脳転移に対してIMRTを使って複数個の転移に同時に治療を行うことができます。これにより短時間に治療を終わらせることで患者さんの負担を減らし、また正常組織への線量を低減することで晩期反応を減らすことができる優れたシステムです。



▲新型リニアック（TrueBeam）



▲悪性リンパ腫脳再発 Rapid Arcによる boost

脊椎定位照射

脊椎転移があった場合、転移数5個以内のオリゴ転移と原発巣に定位照射を行う場合や、過去に疼痛緩和目的の照射を行ったが疼痛が再燃あるいは残存した場合の再照射において、定位照射が行われる場合があります。脊髄を避けて転移巣に線量集中できるため、晩期反応を抑えながら疼痛緩和を得ることができます。

新しい機能を使って、より少ない晩期障害でより高い局所制御率や疼痛緩和を得られる定位照射を推進し、患者さんに安心して放射線治療を受けていただけるようにしていきたいと考えています。照射適応患者さんがおられましたら気軽にご相談ください。